

新年を迎えて



代表取締役社長 野澤 俊太郎

新年あけましておめでとうございます。

ケミカルタイムズの読者の皆様並びにご執筆の先生方におかれましては、さぞかし良いお正月を迎えられたこととお喜び申し上げます。

低成長からデフレ不況と言われ10年以上が経過した最近の経済状況については、「景気は穏やかな底離れ状態に入っている」との見方が一般的になってきています。また、構造改革と景気回復のために打ち出される新しい政府の諸施策に対する期待も高まっております。しかし、一方、国内における円高基調、株価の伸び悩み、デフレ物価の浸透等の傾向、海外におけるイラク中近東情勢の不安定化、米国の財政赤字の増大等の諸事情を勘案いたしますと、景気の直線的な回復に対する懸念材料は、なお多く残されていると言わざるを得ない状況にあります。このような情勢下の中で、企業の業績は長年に亘る雇用、生産調整、事業統合等のリストラ施策が行われ、その効果が現れてきたことにより、全般的には増益基調に転じていると言えるでしょう。

私たちの社会は環境との調和を図りながら、より豊かに、ゆとりのあるものにするという“夢”を持った21世紀の幕開けから早3年が経過いたしました。エレクトロニクス、通信・コンピュータ、医療、素材、自動車等の産業分野を中心に、ナノ、バイオ及びIT技術をはじめとする先端技術の開発によって、実用化に向けての取組みが着々と進められ、省エネルギー、省資源等の環境へ配慮した新製品が数多く創出されております。

弊社は試薬メーカーとして、それらの分野における先端技術の研究開発には「試薬」が必ず使用され、21世紀の最先端分野を支えているものと自負するとともに、ますます

厳しい要請に応えるべくその役割の重要性を再認識しているところでもあります。この間、草加工場内に溶剤専用工場、伊勢原工場内に生培地工場等の新設をはじめとする生産設備の拡大・拡充を図り、環境・食品関連試薬、微生物検査試薬、半導体用機能性薬品、環境調和型反応溶媒であるイオン性液体等の新製品を開発し提供してきております。

また、弊社では、「環境保全や安全確保の管理」についての取組みを、新年度経営方針のトップに掲げ、環境保全は試薬業界初で全工場が既に取得し活動中のISO14001をツールとして更なる展開を図り、安全の確保は弊社独自の総合安全管理体制によって、「設計開発から廃棄に至るすべての段階における化学物質の安全管理」、すなわち、俗にいうRC(レスポンシブルケア)による強化を徹底させ、企業における社会的責任を全うするための自主管理体制の確立に、積極的に推進しております。

さらに、弊社は本年11月には創立60年を迎えます。新たに生まれ変わる還暦は、メーカーとしての飽くなき技術への挑戦をし続けることで、必ずや明るい未来が開け、“新生関東化学”が誕生するものと確信し、全社員が一丸となって取り組んでいく所存です。

なお、ご愛読いただいております「THE CHEMICAL TIMES」は、187号より表紙デザインならびにサイズを変更し、装いを新たにHPにも掲載して1年が経ち、お蔭様で皆様方よりご好評を博しているところであります。

今後とも、尚一層のご愛顧、ご鞭撻をお願い申し上げますとともに、皆様方におかれましては、この1年が光輝に満ちた幸多い年でありますよう祈念し、新年のご挨拶いたします。